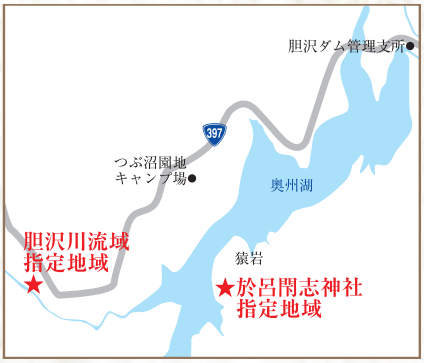
広報おうしゅう
Vol. 159
■発行日／令和元年5月9日 ■発行／奥州市 〒023-8501 奥州市水沢大手町一丁目一 ■電話／0197㉔2111 ■印刷／あべ印刷㈱



1 低地に生育するヤブツバキとは異なり、根元から小枝が伸びて低木状になる
2 花びらは平らに開く。雄しべは黄色で、根元部分がヤブツバキのように筒状にならずバラバラである
3 猿岩中腹に奥宮がある於呂閇志（おろへし）神社から授与されたユキツバキの枝と神符。田植え後の水口（みなぐち）に立てる信仰が今も残る

奥州遺産

―ときを越え受け継がれるもの―

第104回

胆沢川流域ユキツバキ群落

＝胆沢若柳＝

つぶ沼を越えて国道397号をさらに西に進むと、光沢のあるユキツバキの葉が林床を覆っていることに気付く。

ユキツバキは、数メートルの雪が積もる日本海側の多雪地帯に分布するツバキの一種である。胆沢川上流域と奥州湖南岸にそそり立つ猿岩は、自生地の東限に当たる。ブナ・ミズナラ林下において、ユキツバキが原生状態で保存されている貴重な場所として、県の天然記念物に指定されている。

ユキツバキの分類には諸説あるが、現在は遺伝子の解析などにより、独立した一つの種とする説に傾きつつある。分類学上の正式名称である学名「カメリア・ルスティカナ・ホンダ」は、昭和22年に猿岩で採取された標本を基に報告されたものであり、当初はサルイワツバキとも呼ばれた。

雪が解ける5月中旬には、赤く、かれんな花がひっそりと深山に春の訪れを告げる。

広告

◉広告の問い合わせは、㈱東広社（☎ 0197 ㊹ 1523）